**2021年度「平和への思い」発信・交流・継承事業　平和学習教材**

**学習計画指導案**

**１．授業概要**

・授業テーマ：「アジアの学生と交流して考えた平和構築」

・使用教材：2021年「平和への思い」発信・交流・継承事業　平和学習教材

・対象学年：高校生

**２．本時の学習のねらい**

①沖縄戦とベトナム戦争を比較することで、それぞれの戦争の違いと教訓が理解できるようになる。

②生徒自身が平和を構築する側という当事者意識を持てるようになる。

**３．本時の学習過程**

　　　　　　　　　　　　＜内容＞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　＜ねらい＞

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| （１）導入　（合計　７分） | | |
| ２分 | 本時の目標を確認（めあて）  「沖縄戦とベトナム戦争について学びそれぞれの「平和」について考え、あなたができる「平和」を作る方法を考える」 | この学習の目的を明確にし、授業に取り組みやすくする。 |
| ２分 | 自分なりの「平和」の定義を考えてもらう | ・現段階での平和に対する自分の定義を確認しもらう |
| ３分 | 生徒に発表してもらう | ・平和の定義は人それぞれあることに気がつく |
| （２）個人ワーク・講義・グループワーク　（合計　４０分） | | |
| ５分 | 個人ワーク  ・平和な社会を作るために、国は軍隊を「持つべき」と思うか、「持つべきではない」と思うか、生徒に考えさせ、その理由を考えさせる。 | ・平和な社会作りと軍隊の保持を考えさせ、沖縄（日本）とベトナムの軍隊に対する考え方の違いにつなげる。 |
| ２０分 | 講義  ①沖縄戦についての振り返り  ・兵士よりも一般住民の犠牲が多い  ・沖縄戦の経緯と運命を分けた２つのガマ  ・学徒隊の役割  ・沖縄戦の特徴  「軍官民共生共死」  「多くの住民が動員された戦争」  ②ベトナム戦争  ・ベトナム戦争の起きた経緯と背景  ・南北ベトナム軍の戦力の比較  ・ベトナム戦争の結果とその後の影響  ・ベトナム戦争から得られた教訓と、ベトナム国民が持つ、軍隊に対する考え方。  ③戦争になれば、多くの住民が巻き込まれ犠牲になるとい共通点  それぞれの戦争から戦争とは何か軍隊とは何か考える。 | ・これまで小学生から学習してきた沖縄戦に関する事実を振り返り、改めて沖縄戦の悲惨さや、戦争になると多くの住民が巻き込まれるという事実を確認する。  ・ベトナム国民は、強国であるアメリカ軍に打ち勝ったという考えを持つ人が多く、自由や独立・平和を守るためには、犠牲を払うのは当然だという考え方がある。ベトナム戦争からベトナム国民が得た教訓を知る。  ・戦争になると、多くの住民の犠牲が伴うことが共通していることに気づかせる。 |
| １５分 | グループワーク（テーマで話し合う）  「軍隊を持つことで作られる平和な社会」と「軍隊を持たないことで作られる平和な社会」どちらを目指すべきか。  ・個人で考えた後にグループディスカッション  ・グループでどのような議論が出たかを発表する。 | ・沖縄戦とベトナム戦争を学ぶ前の軍隊に対するイメージと学んだ後での軍隊に対するイメージの違いに気がついてもらう。  ・グループ内でのディスカッションを通して様々な意見に触れて更に考えを深めてもらう。平和を構築する方法について、様々な違いがあることに気づく。 |
| （３）まとめ（３分） | | |
| ３分 | まとめ  ・沖縄戦から75年以上経過した今も沖縄は軍事拠点とされ、自衛隊基地機能が強化されている現状  ・戦争がない今だからこそ常に考え続けなくてはいけない。今日（2022年）は戦後76年なのか。戦前○年なのか向き合い続けることが重要。 | ・本時の授業を通して、日本、沖縄に住む1人として、平和について考え、行動に移す重要性に気づく。 |

**＜本時の学習過程（詳細）＞**

**（１）導入（合計７分：目標の確認２分、平和の定義を考えてもらう２分、生徒所感の発表３分）**

※準備物：ワークシート

①平和について今持っている考えの範囲内で挙げてもらう。

②指導上の注意点：

生徒からの意見について、否定せずにたくさん引き出す。

**（２）個人ワーク・講義・グループワーク（合計４０分：個人ワーク５分、講義２０分、グループワーク１５分）**

**個人ワーク（５分）**

講義やみんなの意見を聞く前に自分なりに考え、言語化してもらう。

**講義（２０分）**

※準備物：パワーポイント資料、ワークシート

①パワーポイント及び動画を使った講義

1. 沖縄戦

沖縄戦では、「軍官民共生共死」の合言葉の元、住民は戦場にかり出され、多くの住民が戦闘に巻き込まれ、犠牲になった。沖縄戦の悲惨さや、戦争になると多くの住民が巻き込まれるという事実を確認する。

1. ベトナム戦争（ベトナム戦争からベトナム国民が得た教訓を知る）

ベトナム戦争でも「軍人」、「住民」が共に戦っている。しかし、ベトナム国民は、強国であるアメリカ軍に打ち勝ったという考えを持つ人が多く、自由や独立・平和を守るためには、犠牲を払うのは当然だと考えている人々がいることを知る。

（「2021年ベトナムチームのパワーポイント資料」を参考資料とする）

②指導上の注意点：

講義型の授業になるので生徒の理解度を確かめながら進むこと。複雑に絡み合う部分、または、それに関連している歴史的知識は補足を加えながら進めること。

**グループワーク（１５分）**

※準備物：ワークシート

①沖縄戦、ベトナム戦争の一連の流れを理解したうえで、軍隊を持つこと（軍事的抑止力）で作られる平和構築を目指すか、軍隊を持たないことで（非武装・中立）作られる平和構築を目指すか議論する。

→軍隊を持つことで自分の命を守ることができるのか。

または、軍隊を持つことで戦争を近づけることにつながらないか。基地を近くに持たない人は命を守ることにはつながるが、基地周辺住民は犠牲になるのではないか、など、軍隊の存在と平和構築について深めることを目的とする。

②指導上の注意点：

生徒が沖縄戦とベトナム戦争のことを踏まえて考えることができているか、活動をみながらサポートする。

**（３）まとめ（合計７分）**

沖縄戦から7７年以上経った今、沖縄には日本全体の約70％の米軍専用施設があり、自衛隊基地機能が強化されている現状がある。

講義を通して、誰かが平和を維持してくれると考えるのではなく、日本、沖縄に住む1人として今日の社会情勢、国際情勢と向き合い平和を求める（構築する）1人になれるようになる。

**４．準備物等**

講義用パワーポイント資料、ワークシート、ホワイトボード